

運営に関する計画

令和7年度

大阪市立清水丘小学校

大阪市立清水丘小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

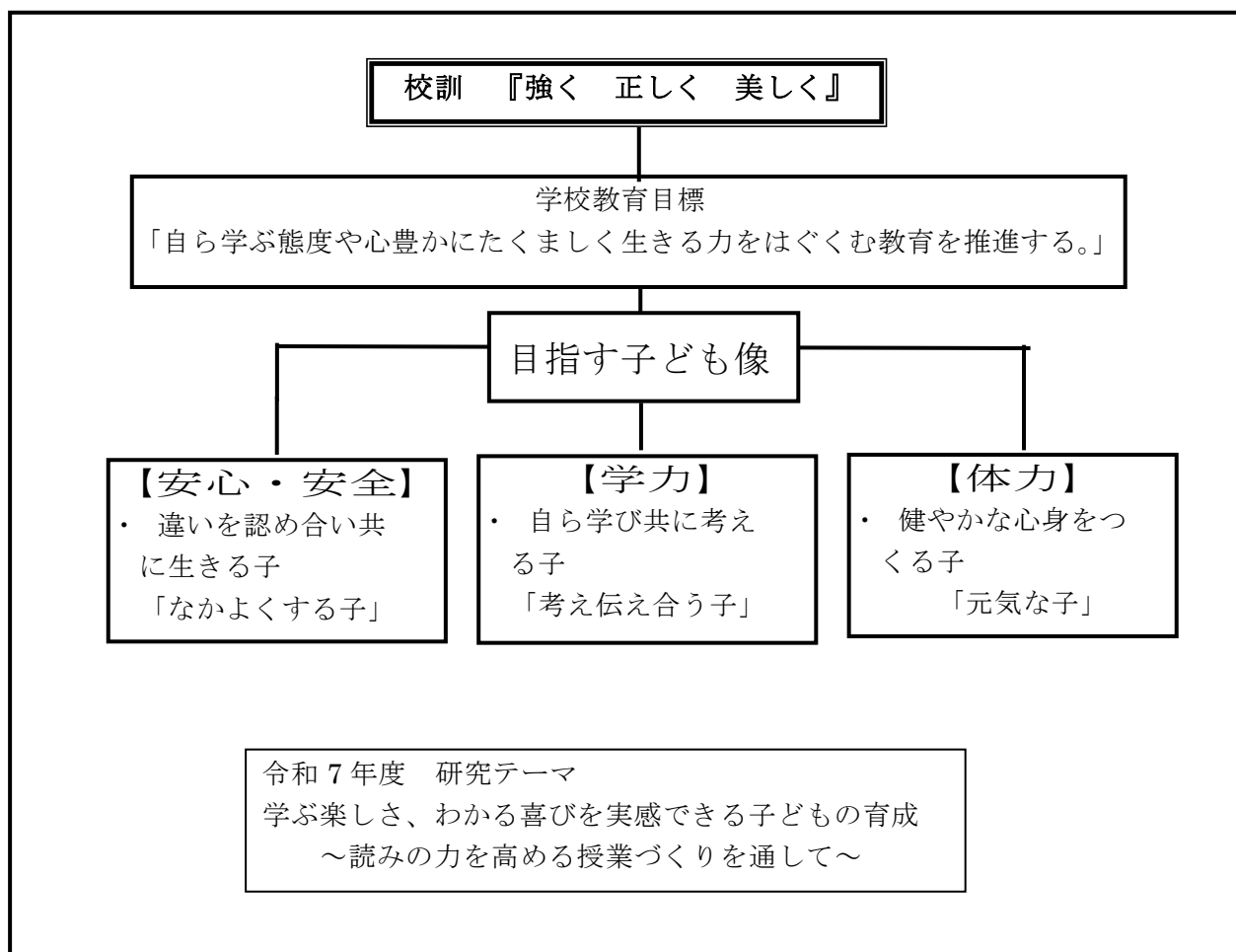
現状と課題

本校児童には、「おはようございます」「さようなら」の元気なあいさつ、「失礼します。〇年〇組の◇◇です。△△をしに来ました。」という職員室入室時の礼儀正しいあいさつ、各委員会からの聞き取りやすいお知らせの放送や集会での報告など、自分の言葉でしっかりと伝えよう、表現しようとする姿がいろいろな場面で見られる。フレンド集会や児童会で計画する「なかよし集会」「清水丘フェスティバル」などで高学年が低学年に見せるさりげない優しさ、委員会やクラブ、地区別子ども会など、様々な場面で高学年として責任をもって活動している姿など、子どもたちの一所懸命活動している姿にその着実な成長が感じられる。

これまで、表現力の育成を目標に、様々な面からの表現活動、とりわけ、話し合い活動の充実や工夫などを中心に取り組んできた成果である。授業の中で積極的に発表しようとする子や友だちの意見をしっかり聞いている子、正しい話型が身につについて積極的に話し合い活動を進めていこうとする力が着実に身につについている。

しかし、長く続いた感染症禍の影響や近年の社会の風潮などにより、物理的にも心情的にも人と距離をとる傾向がみられ、話し合い活動を含めた表現する場面、コミュニケーションを取り合う場面を十分にもてなくなっている。子どもたちを見ていても、積極的に発表しようとしたり意欲的に様々な活動に関わっていったりする姿が減ってきているように感じられる。相手のことまでよく見て、よく考えて関わろうとする気持ちの余裕もなくなっているようにも思われる。十分な成就感や達成感を得られる機会が減り、目に見えないストレスやあきらめ、不安が募っているようにも思われる。その中でも、子どもたちは可能な範囲でできる最大限の活動に一所懸命に取り組んできた。厳しい状況が続く中でも、しっかり前を向いて頑張っていこうとする子どもたちが多く、これまで取り組みが引き継がれ、子どもたちの力として確実に育ってきている成果でもある。

子どもたちが安心して、期待と意欲をもって取り組んでいけるような活動を工夫したり新たに構築していったりする必要がある。加えて、やればできるという自信や達成感を深め、自分も相手も大切にしながら共に高めあっていけるような取り組みにしていかなければならない。学習面での結果として成果が表れるようにしていくことも必要である。新たに目標設定をするにあたり、改めて学習面はもちろん、生活規律やコミュニケーション力・表現力等における土台・基盤をより強固にしていけるよう、教職員一丸となり、地域や保護者とも連携を図りながらその目標に向けて教育活動を推進していくこととする。



中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答率を87%以上にする。
- 令和7年度の児童アンケートにおいて、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的回答率を95%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「学校のきまりや約束を守っていますか」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。

【未来を切り拓くため学力・体力の向上】

- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。」の項目について、肯定的回答率を85%以上にする。
- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「運動やスポーツをすることが好き」の項目について、肯定的回答率を86%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の児童アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業はおもしろい。」の項目について、肯定的回答率を90%以上にする。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- 小学校学力経年調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。
- 小学校学力経年調査において「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。

学校独自の年度目標

- 令和7年度2回目児童アンケートにおいて「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度に比べて1ポイント以上上げる。
- 令和7年度2回目児童アンケートにおいて「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目について肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。
- 令和7年度2回目児童アンケートにおいて、「学校のきまりや約束を守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を49%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。

学校独自の年度目標

- 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。
- 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする(ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く)。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

学校独自の年度目標

- 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合を前年度より向上させる。
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立清水丘小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○ 小学校学力経年調査において「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査において「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を84%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査において「学校のきまり(規則)を守っていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。 学校独自の年度目標 ○ 令和7年度2回目児童アンケートにおいて「毎日学校に行くのが楽しい」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度に比べて1ポイント以上上げる。 ○ 令和7年度2回目児童アンケートにおいて「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の項目について肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。 ○ 令和7年度2回目児童アンケートにおいて、「学校のきまりや約束を守っていますか」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・互いに理解し、支え合いながら問題を解決していく力を育てる。 ・日々の学習活動等で課題を達成する成就感をもたせ、自己肯定感を育成する。 ・相手を思いやりたり善悪の正しい判断をしたりできる道徳性を養う。	B
指標 ・日々の学習活動に加えて、児童会行事やフレンド集会、委員会発表、クラブ発表、学年発表等、様々な発表・表現の機会、成就感をもたせる機会を工夫する。 ・人権教育指導計画や道徳教育全体計画に即して、計画的、系統的な人権教育、道徳教育を推進する。 ・令和7年度2回目児童アンケートにおいて、「自分にはいいところがある」の項目について、肯定的回答をする児童の割合を83%以上にする。	

取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・「いじめについて考える日」をはじめ学校教育活動のあらゆる機会をとらえ互いに理解し認め合うこと、いじめはどんなことがあっても許されないと実感し、いじめを絶対に許さない児童を育てる。 指標 ・人権教育指導計画や道徳教育全体計画に即して、計画的、系統的な人権教育、道徳教育を推進する。 ・いじめの早期発見および迅速に対応できるようにするため、毎月および学期に1回、いじめに関するアンケートを行う。また、アンケート結果を共有し全教職員で取り組む。	B
取組内容③【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 ・学校のきまりを守り、安全に正しく学校生活を送れるように、児童の実態を的確に把握し、全教職員が日常的・組織的に指導する。 ・保護者・地域・関係諸機関等と連携をとりながら、児童虐待への対応や防災・減災、交通安全、防犯等の安全を守るための教育活動を計画的に推進する。 指標 ・学校のきまりや生活目標について、毎週の児童朝会で前週の反省をし、今週の目標を伝える。さらに全学級に月目標を掲示し、学級指導を行い、定着を図る。 ・スクールホーターやスクールカウンセラー、主任児童委員との打ち合わせやこどもサポートネットとのスクリーニング会議、はぐくみネットコーディネーター会議等を随時行い、情報共有しながら適切に対応できるようにする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容① ・フレンド集会やクラブ活動、委員会活動など、他学年との関わりをできるだけ多く設定するようにしている。 ・人権教育や道徳教育について年間計画をもとに計画的に進められている。 ・令和7年度1回目の児童アンケートにおいて、「自分にはいいところがある。」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合は、86.7%と目標を上回っている。 取組内容② ・人権教育や道徳教育について年間計画をもとに取り組むとともに、強化週間を設定するなど、計画的に進められている。 ・毎月および学期に1回行う、いじめに関するアンケートにより、早期発見および迅速な対応に努めている。特に昨年度より取り組んでいる毎月のいじめアンケートにより、小さなトラブルや悩みに気が付きやすくなったため、早期解決につながっているといえる。 取組内容③ ・学校のきまりや生活目標については、毎週の児童朝会で前週の反省をし、目標を伝えるなど、全体指導・学級指導を行ってきたため、きまりを守ろうとする児童の意識は育ってきた。その一方で、登下校時の帽子の未着用や遅刻・廊下の歩行のしかたなど、まだまだ指導が十分に反映されていないこともある。 ・問題行動やトラブル、学級の様子や気になる児童の様子については生活指導部会や子ども連絡会で交流し、できるだけ情報共有するようにしている。	

改善点

取組内容①

- ・年度末に向けて、クラブ発表や委員会発表などの取り組みを計画的にすすめていくとともに、継続して、他学年との関わりを持てる活動をできるだけ多く設定していく。
- ・計画をもとに継続して人権教育、道徳教育に取り組む。

取組内容②

- ・計画をもとに継続して人権教育、道徳教育に取り組む。
- ・いじめアンケートについては、結果を全体共有し、学校全体で状況把握と迅速な対応に努める。

取組内容③

- ・学年後半になると学校のきまりに対する意識が薄れていく傾向にあるので、継続指導していく。
- ・引き続き職員会議等の場で教職員間の共通確認しながら、全校で一貫した指導をする。
(教職員間の共通確認→全体指導→学年・学級指導→個別指導)
- ・外部機関との連携をより強められるようにする。

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を49%以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を65%以上にする。 学校独自の年度目標 ○ 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。 ○ 令和7年度2回目の児童アンケートにおいて「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度より1ポイント以上上げる。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・本年度の授業研究は「学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる子どもの育成」をテーマにし、副題として「読みの力を高める授業づくりを通して」を設定した。国語科の読む力を高めることで、着実に基礎学力を高めていくとともに、学ぶことの楽しさやわかることの喜びを感じられるような授業展開の工夫を考えていく。 ・日々の学習活動の中に話し合い活動を積極的に取り入れ自己表現の機会をつくる。 ・児童会行事やフレンド集会、委員会発表、クラブ発表、学年発表等、様々な発表・表現の機会を設け、意欲的に表現活動に取り組ませる。お互いを尊重し合いながら話し合いを深め、主体的に取り組ませる。 指標 ・自分の考えを深めたり広めたりすることができる力を養うために、授業の中で話し合い活動（ペア・グループ・全体）の場を積極的に設定する。 ・各学年に応じて、お互いを認め合う相互鑑賞・発表活動・感想の交流等の表現活動を学期に1回程度行う。 ・各学年が研究授業を行ったり、各個人が公開授業を行ったりして、児童の学力を高められるようにしたり、教員の授業力の向上を目指したりする。	B
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・体力向上にかかわる体育的行事を年間2回以上実施し、児童の健康や体力の保持増進に対する興味関心を高める。 ・年度当初に実施する体力テストをもとに、各学年の実態を分析し、体力向上を目指して体育科の学習を工夫する。 指標 ・なわとび週間や耐寒かけ足週間を各1週間以上実施する。なわとびカードやかけ足カードを使用することで、児童の意欲を高める。 ・体力テストの結果に応じ、体力向上を目指した単元を設定する。体力テスト記録カードで自分の記録の伸びを確認できるようにし、児童の意欲を高める。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組み内容①	・本年度は国語科の研究を進めている。各学年が実態に合わせ、授業展開を工夫し、子どもらの読みの力を高められるように研究を進められている。 ・授業の中でペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れてきた。しかし、1回目の児童アンケート「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が42.3%で昨年末より4.7ポイント下がっている。 ・様々な発表・表現の機会を設け、意欲的に表現活動に取り組めるようにした。
取組み内容②	・今後、かけ足週間となわとび週間を行う予定である。1回目の児童アンケート「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が63.0%で昨年末より0.1ポイント上がっている。 ・年度当初に実施した体力テストをもとに、各学年の実態を分析し、体力向上を目指して、工夫して学習を進められている。
改善点	
取組み内容①	・残りの研究授業も計画的に行う。研究を進めてきた中で、出てきた課題を各学年に応じた形で取り入れ、「学ぶ楽しさ、わかる喜びを実感できる子どもの育成」を目指していく。 ・前期に取り組んできたことを生かし、子ども達が自主的、主体的に話し合ったり、自信をもって取り組んだりできるように、声掛けや活動内容を工夫していく。 ・発表活動が増える後期に、達成感を感じ取れるようにする。また、互いを尊重し合いながら主体的に取り組めるようにする。
取組み内容②	・アンケート結果を昨年末より1ポイント上げるために、体育科の学習の中で、スモールステップをたくさん設け、運動やスポーツの楽しさを感じ取れるようにする。 ・体力テストの結果分析をもとに、各学年の実態に応じた分野の学習を取り入れるようにする。

年度目標	達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の８０％以上にする（ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日を除く）。 ○ 第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を６５％以上にする。 学校独自の年度目標 ○ 令和７年度２回目の児童アンケートにおいて、「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合を前年度より向上させる。 ○ 第２期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準１を満たす教職員の割合を６５％以上にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
取組内容①【基本的な方向６教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・ ＩＣＴに関わる研修会を年間１回以上実施し、教職員の指導力の向上を図るとともに、学習者用端末を活用した授業の工夫を行う。 指標 ・ 学校で週３回以上は学習者用端末を活用した学習活動ができるようにする。	B
取組内容②【基本的な方向７ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ ノー残業デーを活用し、効率よく業務を遂行する意識を高める。また、学校閉庁日を年間４日以上設定する。残業時間軽減のため意識向上の取り組みや、保護者への周知など、教職員や保護者の意識改革を図る。 指標 ・ ノー残業デーを行事予定に明示し、それに基づいて計画的に業務を遂行できるようにする。 ・ 学校だよりやＰＴＡ実行委員会、地域の会議などを活用して保護者・地域に本校の働き方改革の取り組みを周知し、理解と協力を求める。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取り組み内容① ・ 学習者用端末を各教科で活用するように努めており、ＩＣＴ やタブレットを使った学習は定着してきている。全体の使用回数も増えているが、単元学習によっては全くタブレットを使わないこともある。 ・ 第１回の児童アンケート「タブレット端末を使った授業はおもしろい」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合は９１.６％で昨年度２回目の９３.１％にわずかに及ばなかった。 取り組み内容② ・ ゆとりの日を設定し、計画的に業務を遂行できるようにしている。 ・ 学校の電話の対応時間を１７：１５までにしたり、手紙の配布をミマモルメで行ったりするなど、教職員の業務軽減を進めていっている。 ・ 時間外勤務時間を月間４５時間未満にしている教職員の割合は７９.４９％で、昨年度の７７.１４％よりも改善できている。

改善点

取り組み内容①

- ・タブレットの入れ替えを現在行っている。入れ替え後も授業で積極的に活用し、使える幅を広げていく。
- ・ICT の新たな活用法を考えるために研修を実施したり、各クラスや各校の事例を取り入れたりする。

取り組み内容②

- ・ノー残業デーの取り組みは引き続き行っていく。
- ・日々の業務内容には改善の余地がまだ残されているので見直しを行い、教職員の業務軽減と時間外勤務の削減につなげていく。